

四半期報告書

(第78期第3四半期)

ハリマ化成グループ株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	4
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月7日

【四半期会計期間】 第78期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 ハリマ化成グループ株式会社

【英訳名】 HARIMA CHEMICALS GROUP, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長谷川吉弘

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋3丁目8番4号

【電話番号】 (03)5205-3080(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 経理グループ長 上辻清隆

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区今橋4丁目4番7号

【電話番号】 (06)6201-2461(代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 経理グループ長 上辻清隆

【縦覧に供する場所】 ハリマ化成グループ株式会社東京本社
(東京都中央区日本橋3丁目8番4号)

ハリマ化成グループ株式会社大阪本社
(大阪市中央区今橋4丁目4番7号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第3四半期 連結累計期間	第78期 第3四半期 連結累計期間	第77期
会計期間	自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日	自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	59,486,099	55,311,042	78,589,084
経常利益 (千円)	4,002,366	3,492,244	4,818,707
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	3,688,308	2,187,152	4,131,290
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,738,314	1,599,862	3,043,184
純資産額 (千円)	37,904,773	37,683,395	37,811,436
総資産額 (千円)	70,979,984	73,682,385	72,870,694
1株当たり四半期(当期)純 利益金額 (円)	141.72	86.27	159.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	50.01	47.80	48.52

回次	第77期 第3四半期 連結会計期間	第78期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月 1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月 1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	28.46	25.32

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国の景気は回復が続き、欧州は弱い回復となり、中国は緩やかに減速しています。

日本経済は、緩やかに回復しているものの、輸出や設備投資、生産の一部に弱さが続きました。

このような中、当社グループは新中期経営計画『NEW HARIMA 2021』の初年度に当たり、更なる事業の成長に取り組んでおります。

当社グループの海外事業は、中国は堅調も、欧州および北米での販売数量の減少があり、売上高は前年同四半期に比べ減少しました。利益面では、販売数量は減少したものの、商品構成の変化および製造原価の低下を主要因として、前年同四半期に比べて増加しました。

国内事業は、売上高、利益面とも前年同四半期に比べ減少しました。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は553億1千1百万円となり、前年同四半期に比べ41億7千5百万円(△7.0%)の減収となりました。

利益面では、営業利益は34億4千万円となり、前年同四半期に比べ3億7千7百万円(△9.9%)の減益となりました。経常利益は34億9千2百万円となり、前年同四半期に比べ5億1千万円(△12.7%)の減益となりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億8千7百万円となり、前年同四半期に連結子会社の繰延税金資産の追加計上に伴い、法人税等調整額(△は益)を△10億7千9百万円計上しましたが、当四半期は追加計上がなかったため、前年同四半期に比べ15億1百万円(△40.7%)の減益となりました。

当社グループの部門別経営成績の概況は次の通りであります。

(樹脂化成品)

国内の印刷インキ業界の生産量は、前年同四半期に比べ減少しました。塗料業界の生産量は、前年同四半期に比べ減少しました。

当部門では、塗料用樹脂の販売は順調に推移しましたが、印刷インキ用樹脂の販売が減少したことにより、前年同四半期に比べ売上高は減少しました。

その結果、当部門の売上高は、140億7千8百万円となり、前年同四半期に比べ13億3千4百万円(△8.7%)の減収となりました。営業利益は5億4千万円と前年同四半期に比べ5億2千6百万円(△49.3%)の減益となりました。

(製紙用薬品)

国内の製紙業界は、板紙および印刷情報用紙の需要がいずれも低迷し、紙・板紙生産量は、前年同四半期に比べ減少しました。中国の紙・板紙生産量は前年同四半期に比べ増加しましたが、米国の紙・板紙生産量は前年同四半期に比べ減少しました。

当部門の売上高は、中国が引き続き堅調に推移したものの、国内および米国は減少したため、前年同四半期に比べ減少しました。

その結果、当部門の売上高は、144億9千7百万円となり、前年同四半期に比べ4億1千4百万円(△2.8%)の減収となりました。営業利益は、中国が堅調に推移したことにより14億7千5百万円と前年同四半期に比べ9千7百万円(7.1%)の増益となりました。

(電子材料)

当部門が主に関連する自動車業界の生産台数は、前年同四半期に比べ国内と欧州は微減、北米と中国は減少しました。

特に中国は米中貿易摩擦と景気減速による影響が続いています。

当部門の売上高は、ソルダペースト、導電性ペーストの販売は増加しましたが、自動車熱交換機用のろう付け材料、半導体用機能性樹脂は、前年同四半期に比べ減少しました。

その結果、当部門の売上高は、40億6千7百万円となり、前年同四半期に比べ2億9千1百万円(△6.7%)の減収となりました。営業利益は1億2千5百万円と前年同四半期に比べ2億3千4百万円(△65.1%)の減益となりました。

(ローター)

粘接着剤用樹脂は、欧州、北米、南米は堅調に推移したものの、アジア、オセアニア地域では需要が低迷したことから、販売数量は前年同四半期に比べ減少しました。

出版印刷インキ用樹脂は、情報のデジタル化を背景に総じて需要が低迷しており、特に欧州と北米において販売が低調であったことから、販売数量は前年同四半期に比べ減少しました。

営業利益は、販売数量は減少したものの、商品構成の変化および製造原価の低下を主要因として、前年同四半期に比べて増加しました。

その結果、当部門の売上高は213億9千5百万円で、前年同四半期に比べ21億4千3百万円(△9.1%)の減収となりました。営業利益は15億5千8百万円と前年同四半期に比べ3億5千3百万円(29.4%)の増益となりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前期末に比べ8億1千1百万円の増加となりました。自己資本比率は47.8%となりました。増減の主なもの、流動資産では現金及び預金が14億7千1百万円増加し、受取手形及び売掛金が9億4千万円減少しました。負債では短期借入金を長期借入金に借り換えたため、短期借入金が4億3千4百万円減少し、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)が7億3百万円増加しております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は19億9千8百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	59,500,000
計	59,500,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,080,396	26,080,396	東京証券取引所市場 第一部	単元株式数は、100株 であります。
計	26,080,396	26,080,396	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～12月31日	—	26,080	—	10,012,951	—	9,744,379

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 941,400	—	—
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 25,128,300	251,283	—
単元未満株式	普通株式 10,696	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	26,080,396	—	—
総株主の議決権	—	251,283	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数50個が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
ハリマ化成グループ 株式会社	東京都中央区日本橋3丁目8 番4号	941,400	—	941,400	3.6
計	—	941,400	—	941,400	3.6

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,352,743	4,823,786
受取手形及び売掛金	※1 21,524,707	※1 20,584,255
商品及び製品	5,866,144	5,536,042
原材料及び貯蔵品	5,691,792	6,102,258
その他	1,818,394	2,038,629
貸倒引当金	△101,989	△94,567
流動資産合計	38,151,792	38,990,404
固定資産		
有形固定資産		
土地	8,529,691	8,424,918
その他（純額）	13,507,550	13,999,027
有形固定資産合計	22,037,242	22,423,946
無形固定資産		
その他	788,101	763,513
無形固定資産合計	788,101	763,513
投資その他の資産		
投資有価証券	9,596,758	9,504,959
その他	2,299,509	2,002,272
貸倒引当金	△2,710	△2,710
投資その他の資産合計	11,893,558	11,504,521
固定資産合計	34,718,902	34,691,981
資産合計	72,870,694	73,682,385

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,019,773	9,592,938
短期借入金	13,423,323	12,988,958
1年内返済予定の長期借入金	1,614,525	1,150,868
未払法人税等	674,088	645,043
役員賞与引当金	87,320	61,340
その他	3,709,702	3,923,656
流動負債合計	28,528,733	28,362,805
固定負債		
長期借入金	2,393,288	3,560,132
長期預り保証金	684,031	663,081
役員退職慰労引当金	447,241	479,892
退職給付に係る負債	954,360	840,678
資産除去債務	48,985	48,985
その他	2,002,618	2,043,415
固定負債合計	6,530,524	7,636,184
負債合計	35,059,257	35,998,990
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,012,951	10,012,951
資本剰余金	9,767,753	9,767,709
利益剰余金	16,949,929	18,170,034
自己株式	△422,482	△992,249
株主資本合計	36,308,150	36,958,445
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,234,378	1,503,387
為替換算調整勘定	△2,019,448	△3,094,449
退職給付に係る調整累計額	△166,206	△147,244
その他の包括利益累計額合計	△951,276	△1,738,306
非支配株主持分	2,454,562	2,463,255
純資産合計	37,811,436	37,683,395
負債純資産合計	72,870,694	73,682,385

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
売上高	59,486,099	55,311,042
売上原価	45,105,880	41,171,011
売上総利益	14,380,218	14,140,031
販売費及び一般管理費	10,562,182	10,699,529
営業利益	3,818,036	3,440,501
営業外収益		
受取利息	34,016	43,207
受取配当金	209,602	89,167
不動産賃貸料	86,985	86,307
為替差益	230,473	81,289
その他	75,111	142,503
営業外収益合計	636,189	442,475
営業外費用		
支払利息	191,730	223,702
持分法による投資損失	—	85,414
インフレ会計修正損	135,284	—
その他	124,844	81,616
営業外費用合計	451,859	390,733
経常利益	4,002,366	3,492,244
特別損失		
固定資産解体撤去費	18,027	—
減損損失	259,000	—
特別損失合計	277,027	—
税金等調整前四半期純利益	3,725,339	3,492,244
法人税、住民税及び事業税	819,336	760,871
法人税等調整額	△1,079,873	202,049
法人税等合計	△260,536	962,920
四半期純利益	3,985,875	2,529,323
非支配株主に帰属する四半期純利益	297,567	342,171
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,688,308	2,187,152

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,985,875	2,529,323
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△572,846	268,983
為替換算調整勘定	△691,064	△1,217,933
退職給付に係る調整額	16,371	19,462
持分法適用会社に対する持分相当額	△21	26
その他の包括利益合計	△1,247,560	△929,461
四半期包括利益	2,738,314	1,599,862
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,531,712	1,400,123
非支配株主に係る四半期包括利益	206,601	199,739

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	185,835千円	134,200千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	1,496,087千円	1,647,122千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月17日 取締役会	普通株式	312,300	12	2018年3月31日	2018年6月25日	利益剰余金
2018年10月30日 取締役会	普通株式	442,413	17	2018年9月30日	2018年12月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月16日 取締役会	普通株式	487,379	19	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金
2019年10月31日 取締役会	普通株式	479,667	19	2019年9月30日	2019年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	樹脂化成品	製紙用薬品	電子材料	ローター	計				
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	15,413,590	14,911,842	4,358,908	23,538,959	58,223,300	1,215,653	59,438,954	47,144	59,486,099
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	160,130	92,510	—	122,076	374,716	88,191	462,907	△462,907	—
計	15,573,720	15,004,352	4,358,908	23,661,035	58,598,016	1,303,845	59,901,862	△415,762	59,486,099
セグメント利益又は損失(△)	1,066,788	1,378,291	359,867	1,204,746	4,009,693	△34,064	3,975,628	△157,592	3,818,036

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に「不動産管理事業」等を含んでおります。

(注2) セグメント利益又は損失(△)の調整額は、棚卸資産の調整額95,887千円、各報告セグメントに配分していない全社損益△292,903千円等が含まれております。

(注3) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「製紙用薬品」において10,000千円、「その他」において249,000千円それぞれ減損損失を計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	樹脂化成品	製紙用薬品	電子材料	ローター	計				
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	14,078,910	14,497,214	4,067,218	21,395,280	54,038,623	1,281,129	55,319,752	△8,710	55,311,042
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	166,714	43,011	—	32,019	241,745	93,791	335,537	△335,537	—
計	14,245,624	14,540,225	4,067,218	21,427,300	54,280,368	1,374,921	55,655,289	△344,247	55,311,042
セグメント利益	540,466	1,475,728	125,525	1,558,700	3,700,420	37,647	3,738,068	△297,566	3,440,501

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に「不動産管理事業」等を含んでおります。

(注2) セグメント利益の調整額は、棚卸資産の調整額105,331千円、各報告セグメントに配分していない全社損益△442,519千円等が含まれております。

(注3) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	141円72銭	86円27銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	3,688,308	2,187,152
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	3,688,308	2,187,152
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,024	25,351

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第78期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)中間配当については、2019年10月31日開催の取締役会において、2019年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対して、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 479,667千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 19円 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2019年12月3日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月4日

ハリマ化成グループ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 居 健 一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 美 濃 部 雄 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているハリマ化成グループ株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ハリマ化成グループ株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月7日

【会社名】 ハリマ化成グループ株式会社

【英訳名】 HARIMA CHEMICALS GROUP, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長谷川吉弘

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋3丁目8番4号

【縦覧に供する場所】 ハリマ化成グループ株式会社東京本社
(東京都中央区日本橋3丁目8番4号)

ハリマ化成グループ株式会社大阪本社
(大阪市中央区今橋4丁目4番7号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 長谷川吉弘は、当社の第78期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。